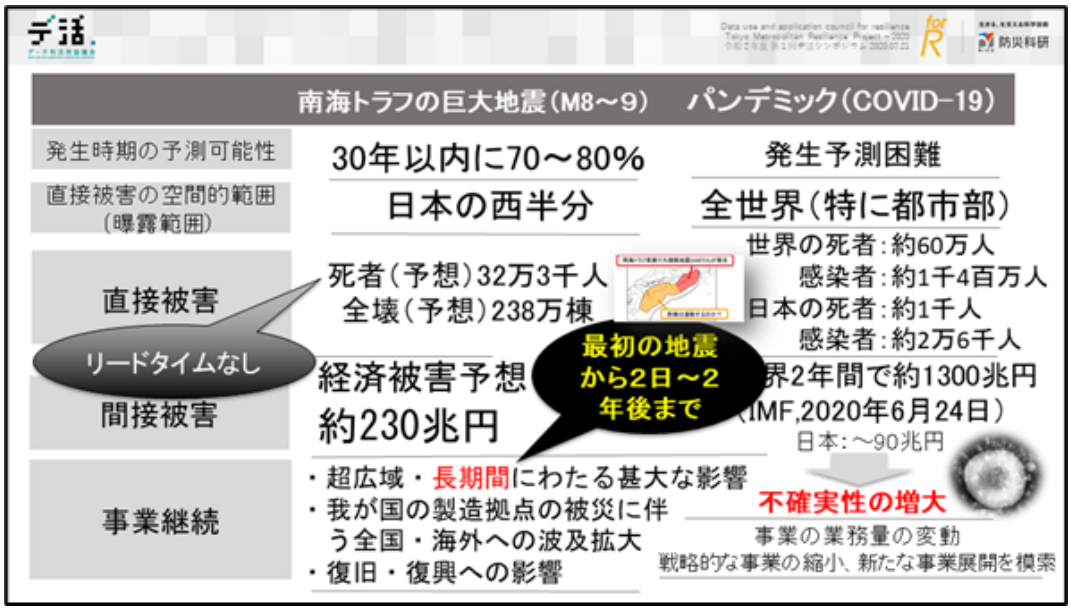
あいさつ　　将来の災害対応を見据え「ハイブリッド方式」推進へ

平田　直（防災科学技術研究所 首都圏レジリエンスプロジェクト 総括 / 首都圏レジリエンス研究推進センター センター長）

主催者を代表してあいさつした防災科学技術研究所首都圏レジリエンスプロジェクト総括/首都圏レジリエンス研究推進センター センター長の平田直氏は、「首都圏レジリエンスプロジェクト」の取り組みについて、対応力の向上を目指す「社会科学」分野、予測力の向上を目指す「理学」分野、予防力の向上を目指す「工学」分野の 3 分野のサブプロジェクトが連携し、産学官民一体となった総合的なプロジェクトとしてレジリエンス総合力を向上させる技術の研究・開発を進めるものと説明。その上でプロジェクトを取り巻く現在の環境として、COVID-19 のリスクにより、社会の不確実性がますます増大していることを指摘しました。

平田氏はまた、これまで主に研究を進めてきた首都直下地震や南海トラフ地震と COVID-19 の直接被害、間接被害についてそれぞれ比較し「南海トラフ巨大地震も首都直下地震も、いつ起きるかをあらかじめ予測することは非常に困難。南海トラフ地震は、一度大きな地震が起きると、もう一度大きな地震が起きる可能性が高くなるが、その次の地震がいつになるのかはよく分からない。これは COVID-19 の不確実性と非常によく似ていると考えられる」と語りました。



平田氏は、今後のデ活のコミュニケーションのあり方について、従来の人と人が直接会って情報交換し意思決定する対面型の方法に加え、人と人が Web を介して情報を交換する非対面・リアルタイムでの手法、さらに過去のデータを取り出すことができるオンデマンドも加えた「ハイブリッド方式」で進めていく考えを示し、今回のシンポジウムについて「将来を見据えて自然災害等さまざまな災害に私たちが取り組んでいくきっかけの一つにしていきたい」と述べました。